

第1学年 道徳学習指導案

平成30年6月22日（金）第5校時

- 1 主題名 みんなが気持ちよく生活するために 内容項目【C 遵法精神、公德心】
- 2 ねらい 主人公を自分に重ねて考え話し合うことを通じて、きまりやルールを守ることの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、自他の権利を大切にしようとする態度を育てる。

教材名 「キャッチボール」 （出典：『中学生の道徳 1年 かけがえのないきみだから』学研教育みらい）

3 主題設定の理由

（1）ねらいや指導内容について

人間が集まって社会が形成されると、個人個人の利益がぶつかり合って集団のまとまりがなくなり、結局一人一人の願いが実現できないことがある。法やきまりは、この集団に秩序を与え、摩擦を最小限にし、個人の自由を保障するものであるということを理解することは大切である。法やきまりを自分勝手な欲望のままに生活することを制限するものと捉えて、仕方なく法に従う事は、進んで守るということではない。また、他者の権利を尊重し、自分の権利を正しく主張するとは、お互いの権利の主張が調和し、両立できるように配慮することと同じである。

人は、自己中心的で自分勝手な言動はよくないとは感じているが、時として、他者へ配慮を欠いた行動を取ってしまうことがある。しかし、社会生活においては他者を思いやり、一人一人が協力して、安心して生活できる社会を作っていこうとする姿勢は欠くことができない。よりよい社会を実現するには他への配慮を心がけた言動が大切である。「自分勝手な態度で他者に迷惑を掛けてはいけない」「法やきまりを守るべきだ」という気持ちに気づかせるだけでなく、自分自身がとる行動が周囲に対してどのように影響するのか気づかせ、配慮した行動をすることができるようにしたい。

（2）生徒のこれまでの学習状況及び実態について

小学校低学年においては「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること」、中学年においては「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること」、高学年においては「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと」を学んできている。

中学校に入学して3ヶ月あまり、生徒は当番活動や係、委員会活動の場面において、集団生活を円滑に進めていこうと、周囲へ配慮しながら生活することが基本的にはできている。しかし学校生活にも慣れ、「このくらいは良いだろう」とあまり深く考えずに自己中心的な行動や態度が若干ではあるが見られるようになってきた。より良い集団を築いていくには、自己を律し、周囲に対して思いやりのある行動が大切であるということに気づかせたい。また、「自己中心的な行

動は良くない」「きまりは守らなくてはいけない」とは分かっているけれども、強い苛立ちや不安、緊張を感じたりする場面においては、つい自己中心的な行動になりがちである。そこで、自分自身が行う行動が周囲に及ぼす影響について考え、周囲に対して配慮した行動をとることができる態度を育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、公共のルールは守らなくてはならないと感じながらも、自分の置かれた状況から自己中心的な行動を取ってしまった主人公（明夫）が、自分と同じように自己中心的な言動をする運転手の姿を見て、自身の行動を省みて、相手を思いやる行動の大切さに気づく様子が描かれている。

社会生活の中で、だれもが本教材と似たような経験をもっていると思われる。主人公の明夫の公共のルールを無視する言動を、自身の体験と重ねつつ、相手を思いやることの大切さについて考えさせたい。そのために、本時の活動においては、以下の場面を中心に、ねらいに迫っていく。

- ① 明夫たちが通路でキャッチボールを始めた場面で、明夫が周囲へ迷惑をかけていることを感じながらも、自分のあせりや不安な気持ちから苛ついていることを押さえる。
- ② おばさんに注意されどなり返した場面で、自己中心的な言動を必死に正当化しようとしている明夫に共感させたい。
- ③ 迷惑駐車をした運転手が明夫の父親に対してどなり返す場面で、他者の痛みを感じている明夫の気持ちを通して、自分勝手な行動に対する反省の気持ちと相手の気持ちを思いやることの大切さを理解し始めたことに気づかせる。
- ④ おばさんと明夫のやりとりを模擬的に体験することで、自分自身が行う行動が周囲に対して、どのように影響するのか気づかせ、相手を思いやり配慮した行動することの大切さに気づかせる。

以上のことから、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 「迷惑だな」「悪いな」とは分かっているながらもついついやってしまったという経験はあるか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具の割り込み。 ・公共の場所で騒ぐ。 ・道路で広がって歩く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予めアンケートを実施し、その結果についても簡単に発表する。
展開	2 教材を読んで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・主人公である明夫の心情や行動で気になるところや共感できる所に線を入れながら聴く。 ・気になる場面や共感できる場面を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) (どけよ!)と心の中で舌打ちをする明夫について。 (2) 注意されたおばさんに、どなり返した明夫について。 (3) 運転手の言葉に、痛みがぐっと増してくるのを感じた時の明夫について。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明夫の置かれた条件・状況を十分に把握させ、明夫に自分自身の気持ちを重ねやすくする。 ・生徒の発表をもとに話し合いの柱立てとする。

展開	<p>(1) (どけよ!) と心の中で舌打ちをする明夫は、どんな気持ちだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・迷惑なのは分かっているけど… ・試合がもうすぐ始まるのに。 ・早く練習がしたい。 ・邪魔だよ! と苛ついている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心の舌打ちから、明夫の周囲に対する気遣いの変容を感じ取らせたい。
	<p><補助発問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪いことと知っているのにどうして練習したのだろう。 ・通り過ぎる人に対して「焦り」や「苛立ち」しか感じていないのだろうか。 		
	<p>(2) 注意されたおばさんに、どなり返した明夫は、どんな気持ちだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐにでも練習したい。 ・自分たちの気持ち(状況)も分かって欲しい。 ・他に場所なんてないのだから仕方ない。 ・自分たちの行動を正当化したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己中心的な行動をとった背景を再度確認しながら主人公が葛藤している様子を感じさせる ・自己中心的な言動を必死で正当化しようとする明夫に共感させたい。
	<p><補助発問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムットしたとあるが、主人公は何に苛立っていたのだろう。 		
	<p>(3) 明夫が運転手の言葉に、痛みがぐっと増してくるのを感じたのは、なぜか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言動により、おばさんの気持ちを傷つけたことに気がついたから。 ・自分のとった行動が周囲に迷惑を掛けてしまったことに改めて気がついたから。 ・自己中心的な言動への恥ずかしさ(情けなさ)を感じているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運転手の発言と主人公の発言を照らし合わせて考え、自己中心的な言動によって周りの人が受ける影響について考えさせる。 ☆相手への思いやりや関わり方に関する主人公や相方の心の内を様々な視点から捉え考えることができたか。
<p><補助発問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワゴン車の運転手はどんな気持ちでどなり返したのだろう。 ・ハッとしたとあるが、明夫は何に気がついたのだろう。 			
<p>(4) (おばさんに注意された場面を再度振り返り…) 明夫はどのような行動を取れば良かっただろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・練習の手を止めて、すぐに謝ればよかった。 ・練習場所へ移動して順番を待てばよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように考え行動すると周囲の人に配慮した行動になるか具体的に考えさせたい。 	
<p><補助発問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・強い口調で返されたおばさんはどんな気持ちだっただろう。 			
<p>(5) グループ内でおばさんと明夫のやりとりを体験してみよう。 3～4人組 明夫役 おばさん役 観察者</p> <p>①教材通りの展開(攻撃的) 両者ともに攻撃的に自分の主張だけをぶつけていく。</p> <p>②直ぐに謝る展開 明夫役は謝り続ける。</p>	<p>お互いに感想を伝え合う。観察者は互いの様子を見て客観的に。</p> <p>①どちらもヒートアップしていく。お互いに引けなくなっていく。</p> <p>②はじめは熱くなるも、徐々に感情が落ち着いてくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を通じて、他者との関わり方について考えさせたい。 	

終末	<p>3 本時の学習課題について気がついたことや考えたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価シートの記入。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身がとる行動が周囲に対してどのように影響するのか気づく。相手を思いやり配慮した行動することの大切さに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのない行動は、いつまでも相手に嫌な想いを残すということが伝わるようにする。 ☆相手への思いやりや関わり方について、自分との関わりで考えているか。
----	--	--	--

5 他の教育活動などとの関連

事前指導	アンケートを実施する。
道徳の時間	<p>教材名「キャッチボール」</p> <p>きまりやルールを守ることの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、自他の権利を大切にしようとする態度を育てる。</p>
事後指導	<p>帰りの会や学級通信を利用して、生徒の感想を紹介し、他者の価値観を理解し自分の道徳的価値を深めさせる。</p>
家庭との連携	<p>本時の授業内容や生徒の感想を学級通信を通して紹介し、家庭でも話題にしてもらう。</p>

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・相手への思いやりや関わり方に関する主人公や相方の心の内を様々な視点から捉え考えることができたか。

【道徳的価値について理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・相手への思いやりや関わり方について、自分との関わりで考えているか。

7 板書計画

キャッチボール

主人公「明夫」
相手「運転手」

明夫はどのような行動を取れば良かっただろうか。

〈柱③〉
明夫が運転手の言葉に、痛みがぐっと増してくるのを感じたのは、なぜだろう

〈柱②〉
注意されたおばさんに、どなり返した明夫の気持ち

〈柱①〉
(どけよ!)と心の中で舌打ちをする明夫の気持ち

〈条件・状況〉
中体連主催の大会の初日。
明夫は中学校2年生、控えの投手。
近くに用意された練習場はいっぱいで場所がない